

## 資料5-2 令和4年度指定管理運營業務評価（包括コメント）

### （1）総括

2022年度は、当社が大阪府より大阪府立国際会議場の指定管理者として新たな10年間の指定を受けてから4年目であり、また、2025年大阪・関西万博を見据えた当社の「ありたき姿」を示した「NEW OICC 2025」の初年度・ホップの年である。

当社は、今年度を、新型コロナウイルス感染症により激減したMICE需要が回復することを見込み、これまで取り組んできたwith/afterコロナの時代を見通した諸施策（e予約・申込手続きのweb化、最先端のAV機器導入など快適な会議環境の整備やMICE人材の確保・育成等）をフル活用した取り組みに加え、他者との連携・協働をすすめつつ反転攻勢の年とすべく取り組んだ。

営業の状況は年初以来、予約状況も増加傾向が見えてきたが、7月以降のオミクロン株による感染症第7波の影響により、なかなか本格的な回復には至らなかった。そのような状況の中、10月11日に入国者数の上限が撤廃され海外からのお客様も少しずつ戻りはじめ国際会議も開催されるようになった。また国内会議、イベントにおいても第3四半期にはコロナ前にご利用の催事も再び開催されるようになり徐々に賑わいを取り戻しつつある。

このようなまだ先行き不安定な状況の中、当社としてはサービス事業の提案販売や仮予約の早期成約といった大增販活動に取り組んでおり、収支の改善に努めている。特にサービス事業における他者との連携・協働については総合サービス事業者として「JTB」との包括連携、アフターコンベンション「船周遊」として「一本松海運」との送客協定、催事に来館される方への土産物販売として「株式会社せのや」と連携することに加え、「JTB」のおみやげ通販サイトとの連携などを図った。

以上のような取り組みを通じ、お客様の安全・安心を確保しつつ、当会議上の魅力向上を図りながら、国際会議等の誘致・開催を進め、大阪の地域活性化に貢献した。

### （参考）主な催事の開催状況

第3四半期中に開催された催事は、社会経済情勢が平常時にもどるとともに徐々に回復し、国際会議19件、国内会議531件、展示会26件、興行47件の計623件となった。

なかでも、国際会議としては4月には2020年2月以来2年2か月ぶりの国際会議となる「JITCO(国際人材協力機構)フィリピン労働人材セミナー」が開催され、10月には2025年日本国際博覧会協

会主催の「International Planning Meeting 2022 (万博出展国準備会議)」や自動車技術会の「公益社団法人自動車技術会 2022年秋季大会」などが開催された。

学術会議においては「第29回日本門脈圧亢進症学会総会」、「The 35th International Symposium on Pediatric Surgical Research(小児外科国際会議)」「SMISS Asia/Pacific Annual Meeting 2022(低侵襲脊椎外科会議)」といった医学系に加え、工学系の「IEEE Big Data2022」などが開催された。

国内会議においては、医学系学術会議として「第126回日本眼科学会総会(ハイブリッド)」、「第22回日本抗加齢医学会総会(ハイブリッド)」「第38回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術集会(ハイブリッド)」等の全館利用の学術会議が開催された。

大学の入学式、式典では「大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学入学式」、「大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念式典・記念講演会」等が開催された。

関西大手企業の株主総会では「株式会社池田泉州ホールディングス 第13期定時株主総会」、「京阪ホールディングス株式会社 第100回定時株主総会」等が開催された。

府民の方も来館されるイベントとしては「第15回日本高校ダンス部選手権」、「第61回 大阪府吹奏楽コンクール」「第2回 全国高校 軽音楽部大会「we are SNEAKER AGES」」が開催され、たくさんの来場者で大きく賑った。

展示会では、毎年恒例の「トータルサポートフェア「食王 2022」、「伝統と創意」第76回日本書芸院展・第76回日本書芸院展記念講演会」、「第50回 JAPONIX 2022 Food Fair 彩食展」、「SUPER BOX2022」が開催され、興行では「松山千春コンサート・ツアー2022春・冬」、「TSUYOSHI NAGABUCHI CONCERT TOUR」、「NMB48 12th Anniversary LIVE」、「サラ・ブライトマン『クリスマス・シンフォニー』」等といった国内外問わず多くの人気アーティストによるコンサートが開催された。

以上